

学校運営協議会だより

飯小小学校学校運営
協議会事務局

共に育ち 共に生きる 地域の学校

第 2 号

R2. 11月13日



10月27日（火）、第2回目の学校運営協議会を開きました。

会長からは、「感染症の予防のために、学校になかなか足を運べなくなった。そんな中ではあるが、よりよい学校運営のあり方を協議してほしい」とご挨拶をいただきました。

校長は、心配されていた臨時休業による学習の遅れは解消していること、コロナ禍でいじめや不登校が全国的に広がっており、飯小では子供の心を大事にした教育活動を進めていることなどを委員

員に報告しました。

全体会では、2学期に行ったICTを活用した授業の取組や感染症対策をして行った運動会、ZOOMによるドイツの学校との交流活動の様子、学校評価結果と今後の取組について協議しました。

その後の分科会は、低学年部、中学年部、高学年部に分かれて行いました。各学年の教育活動の進捗状況を学年主任が説明し、それについての質疑応答や今後の活動についての意見交換を行いました。

全体会で出された主な意見

- 感染症のために人と関わる機会が少なくなっている。そのため挨拶をする機会が減っている。人間関係が作られないとなかなか挨拶はできない。今は、体験を通して挨拶する人を増やすのは難しいが、意識を高めていくことは大切である。
- 校区内を歩いていると、何度も顔を合わせる子供がいる。はじめは挨拶もなかったが、月日が経つにつれ挨拶をしてくれるようになり、最後には言葉を交わすまでになった。相手に合わせた挨拶ができるような教育ができれば最高である。それには根気が必要だ。
- 地域の大人から声を掛けてあげることが大事だ。子どもが「あの人は〇〇をしている人だ」と分かると安心して挨拶ができる。
- ドイツの子どもたちとの交流は素晴らしい。今後の取組はどうなるのか。
 - ➡学校の説明
 - ・どのような形になるか未定だが今後も交流が継続できるよう計画を立てていく。

部会で出された主な意見

【低学年部会】



- 園では、3～5歳までの畑の経験がある。1年生のウサギの飼育は子どもたちにとって初めてとなる。良い経験になってほしい。
- 園の活動と生活科の活動内容との重なりを無くすために情報交換をしたい。子どもの興味が半減しないように。
- 園での活動を小学校で広げてもらっている。収穫の喜びを味わうことで、嫌いな野菜でも給食に出ると喜んで食べる。
- 子どもを評価するにあたり、あまり高い目標を持ち過ぎない方がよい

【中学年部】



- 町内の良いところや歴史は、町内会長に相談するとよい。町内会長自身も町内活動や土地言い伝えについて説明できるし人を紹介することもできる。
- 詳しい人が誰なのかを探すのは難しいかもしれないが、年配の方はよくご存じだ。また、市の学芸員や文化行政課の協力を得るのも方法の一つだ。
- 4年生の活動は児童の興味によって色々な方向に追究できてよい。4年生としてどこまで求めるのか教師が基準をもつことが大事だ。

【高学年部】



- 地区にはいろいろな方面での活動や史跡や設備、伝承文化がある。
例：「あじさい会」「神楽」「観音堂」「白山神社」「湧き水」「浄水場」「古道」
- 他の地域から上越にきて、地域と関わって活動し、地域を支えている人もいる。その思いに触れることもよい体験となる。
- 活動を支える人々がいる。誰かが先頭に立てば、人はそれについてくる。